



【参加時の留意点】

<ミーティングリンク>

・ <https://ishikawapf.webex.com/meet/type-s>

- **参加時の表示名は必ず「所属組織 所属部署 氏名」で設定してください。**
※設定いただいたのち、事務局にて、表示名を「【チーム名】所属組織_所属部署_氏名」へ変更させていただきます。
- 通信環境の安定を目的に、**発言時を除き、カメラはオフ、マイクはミュートにしてください。**
- 発言を希望する場合は、WebExの画面下にある挙手ボタンを押していただき、司会者または事務局から指名された後に発言してください(発言が終わりましたら、挙手ボタンを下げてください)

開始まで今しばらくお待ちください



広域被災者データベース・システム構築検討ワーキンググループ 第3回ワークショップ

議事次第

令和6年12月24日（火） 10:00

～ 12:00

石川県行政庁舎5階511会議室
(現地・オンラインのハイブリッド開)

< 議事 >

開始時間	終了時間	所要時間	内容	実施方法
10:00	10:03	0:03	開会の挨拶、オブザーバーの紹介	・ 事務局からの全体説明
10:03	10:10	0:07	ワークショップの位置づけ/ 「被災者見守り・相談支援」業務の説明	・ 事務局からの全体説明
10:10	10:20	0:10	「被災者見守り・相談支援」業務に関する ディスカッション	・ 事務局からの全体説明
10:20	11:20	1:00	ディスカッション	・ ブレークアウトセッションにて、チーム毎に協議
11:20	11:26	0:06	全体質疑・協議	・ 事務局からの全体共有
11:26	11:46	0:20	全体質疑・協議	・ 参加者全体での質疑応答や意見交換
11:46	11:59	0:13	オブザーバー・国からの総括コメント	・ オブザーバーおよび国からの意見
11:59	12:00	0:01	今後の検証・検討チーム/検討WGのご案内	・ 事務局からのご連絡

< 資料 >

- ・ 広域被災者データベース・システム構築検討ワーキンググループ 第3回ワークショップ資料

ワークショップの位置づけ

「被災者見守り・相談支援」業務の説明

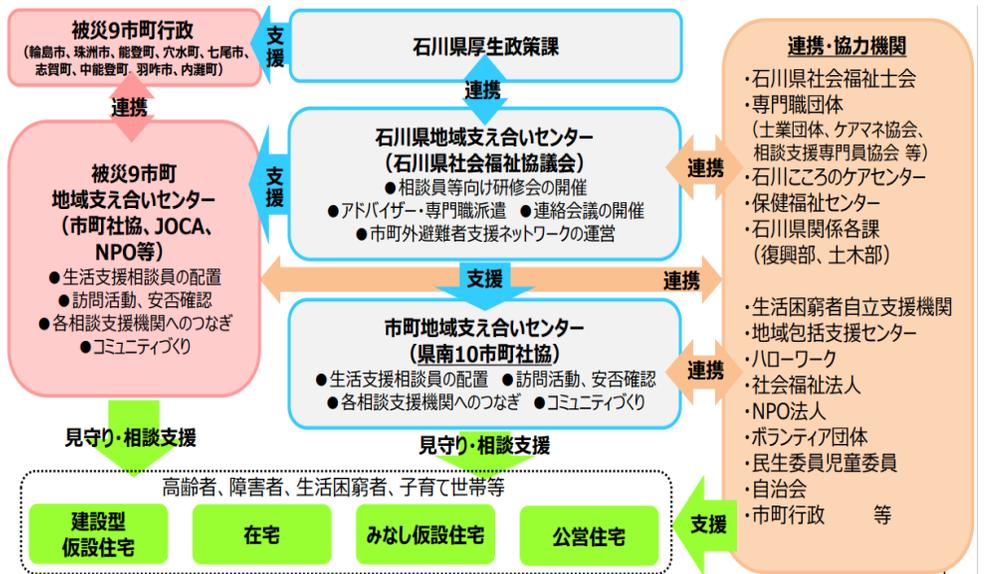
広域被災者データベース・システムで扱う情報

<事業のスコープ（成果物の定義）>

 : 今回のWSの対象範囲

広域被災者データベース・システム で扱う情報	仕様書			導入手順書
	データ要件	機能要件	非機能要件	
①基本情報	定義	定義		定義
②聞き取り情報	定義	定義	緑枠の情報を取り扱う ことを見越して定義	定義
③専門家が収集する情報/医療・福祉等外部システムが保有する情報	検討中	検討中	(特にセキュリティの観点)	検討中

<「被災者の見守り・相談支援」業務>



<広域被災者データベースで扱う情報>

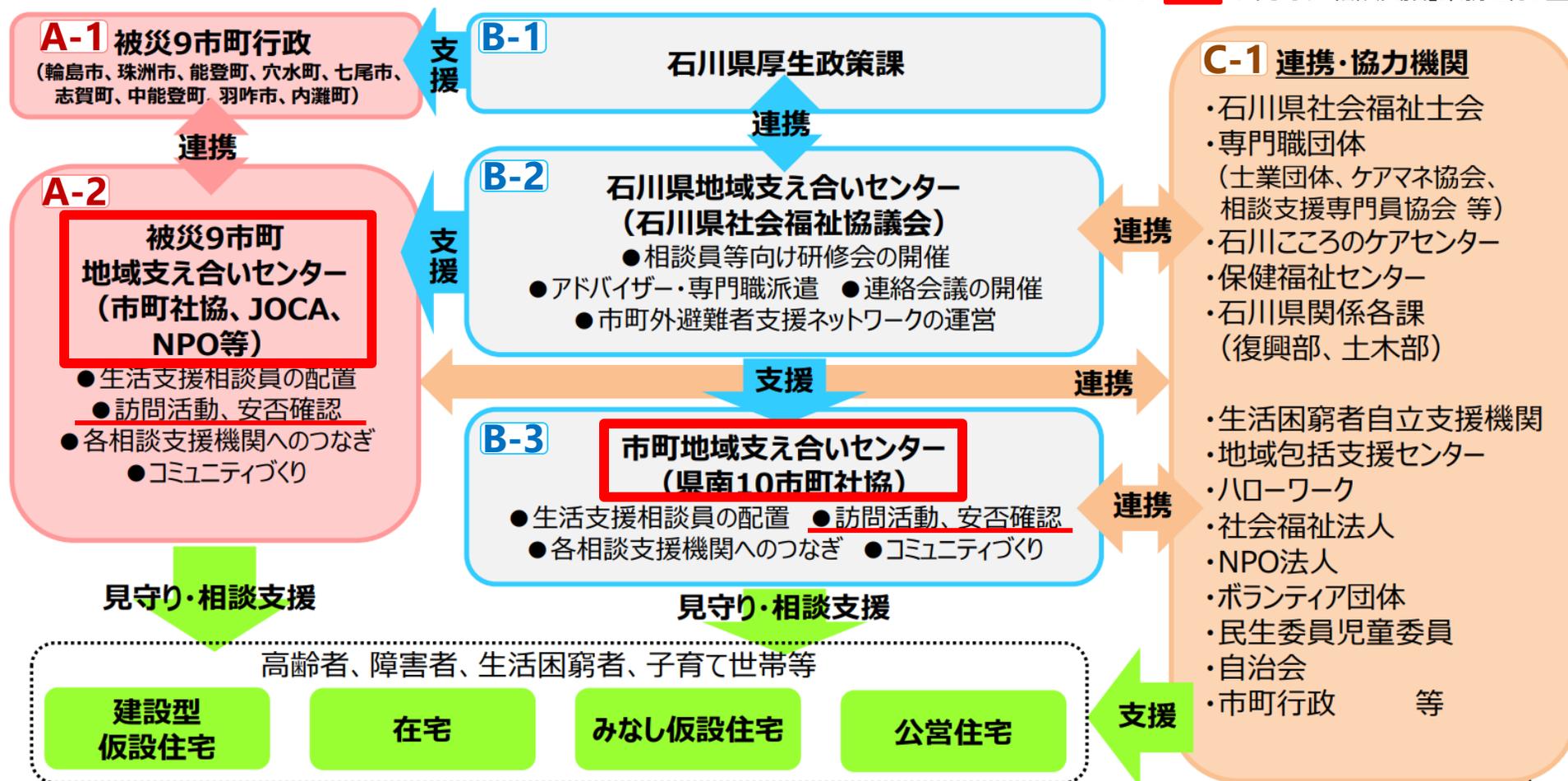


石川県における被災者見守り・相談支援等業務 実施体制

<地域支え合いセンターの設置>

県及び県内19市町は「地域支え合いセンター」を設置し、令和6年能登半島地震の被災者の生活再建に向けて、訪問活動による見守り・相談支援など総合的な支援を実施

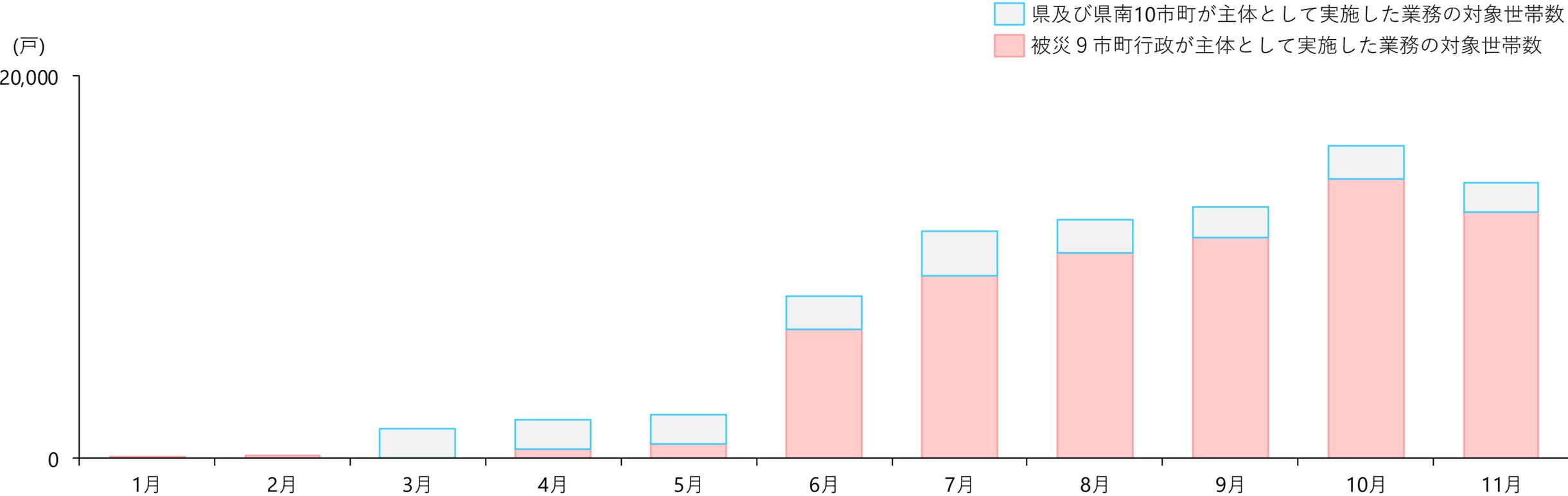
【凡例】 : 「見守り・相談支援」業務を行う主体



※出典_石川県健康福祉部厚生政策課ホームページ (「地域支え合いセンター」の活動について | 石川県)

被災者見守り・相談支援業務の対象世帯数の推移

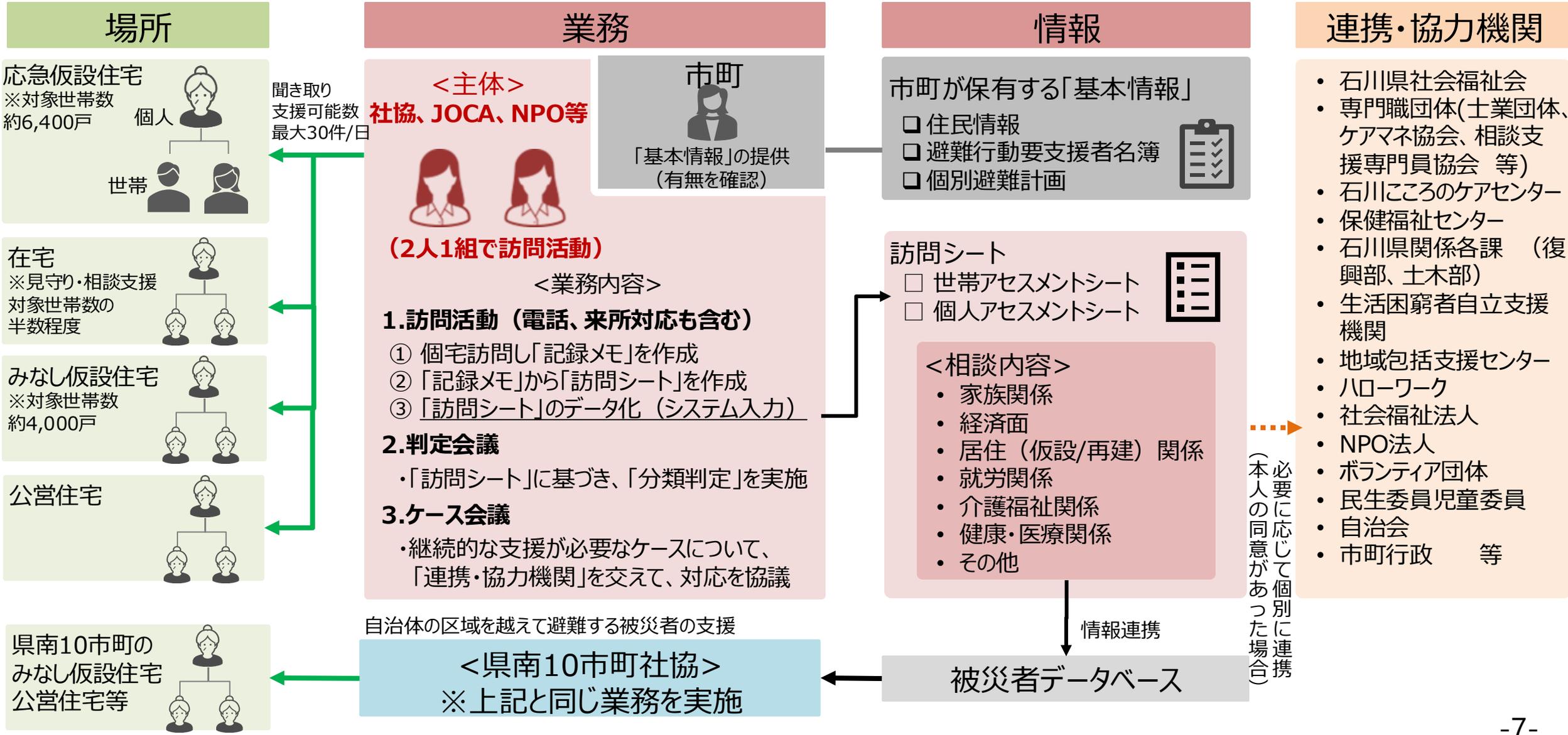
- 令和6年能登半島地震後、1月から業務を開始
- 「県及び県南10市町」は、3月から開始
- 対象世帯は、県内で1万戸を超え、現在も訪問活動を継続中



※出典_石川県

被災者見守り・相談支援業務の事例

※市町により「業務内容」が異なる場合があります。

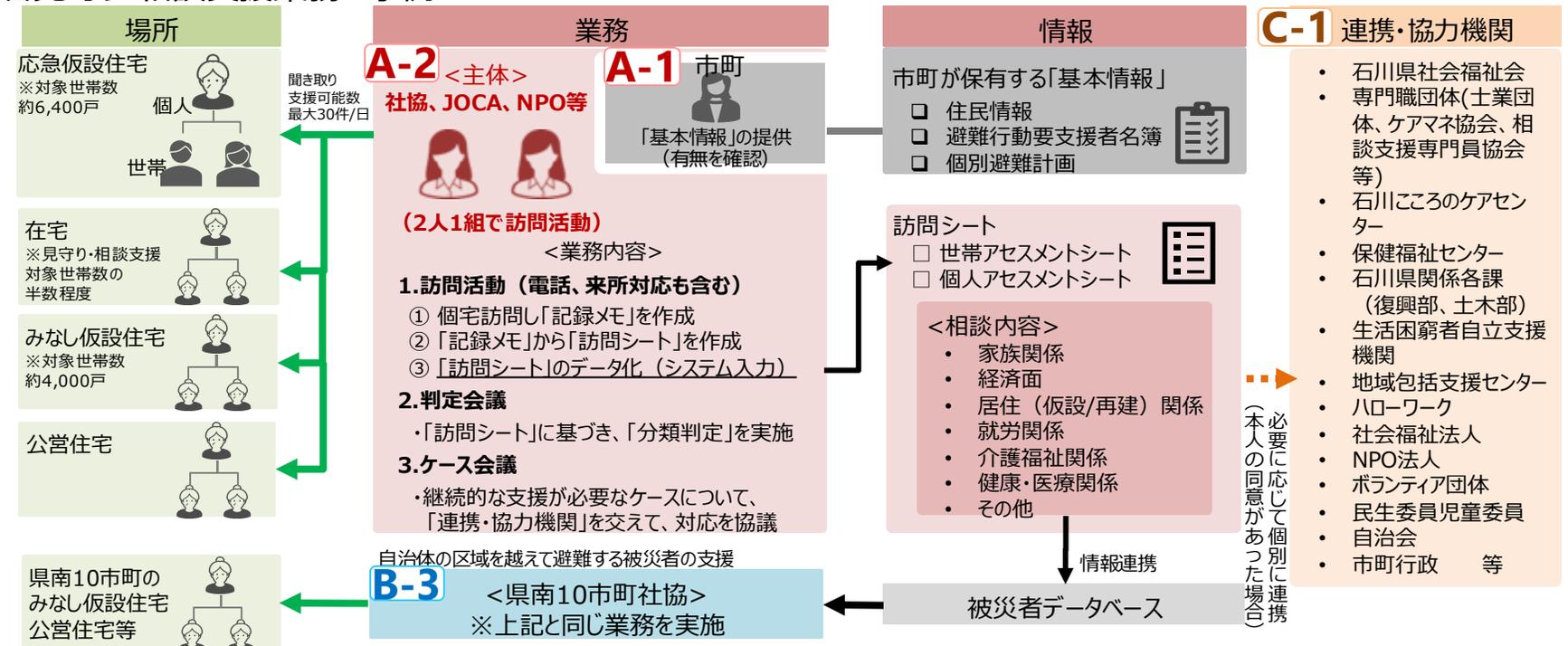


ワークショップの目的とゴール

目的 **業務担当者**(自治体の業務担当者、支援機関等)等で討論、意見交換を行い、**見守り・支援業務において生じた解決すべき課題を整理する。**

- 背景と課題
- 訪問活動による見守り・相談支援など総合的な支援を実施するため、事業主体(被災9市町行政、石川県厚生政策課及び県南10市町)、受託者(地域支え合いセンター)、連携・協力機関との情報連携が必要な一方で、
- ① 訪問活動、安否確認情報の**連携方法(項目や手段)が定義されていない**
 - ② **業務の効率化・デジタル化**が求められている
 - ③ **個人情報(訪問記録等)の取り扱い(共有範囲、本人同意の必要性等)の整理が必要**

<被災者見守り・相談支援業務の事例>



「被災者見守り・相談支援」業務に関するディスカッション

ワークショップの進め方

チーム分け

	Aチーム(19名)	Bチーム(16名)
市町	✓ 志賀町、輪島市、能美市	✓ 珠洲市、加賀市、かほく市
社会福祉協議会、青年海外協力協会等	✓ 志賀町社会福祉協議会、津幡町社会福祉協議会、川北町社会福祉協議会	✓ 珠洲市健康増進センター、七尾市地域支え合いセンター、(公社)青年海外協力協会、金沢市社会福祉協議会
5都県	✓ 神奈川県	✓ GovTech東京
構成員	✓ AI防災協議会、ひょうご震災記念21世紀研究機構、岡本委員	✓ 内閣官房デジタル行財政改革会議事務局、内閣府防災担当、デジタル庁、防災DX官民共創協議会
オブザーバー	✓ 神戸市立看護大学	✓ 倉敷市社会福祉協議会、倉敷市

- ✓ ご参加者を市町・社会福祉協議会、青年海外協力協会等・5都県・構成員のいずれかに定義し、A/Bの2チームに分けました。
- ✓ 同じ市町や組織から参加される方々は、基本的には同一チーム内で協議を進めていただきます。
- ✓ なお、別チームへの移動を希望される場合、画面右上のセッションを選択をクリックして移動してください。

基本的な進め方

- ✓ ディスカッションは10:20に開始し、11:20に終了します
- ✓ テーマごとに目安時間の中で、各参加者よりご意見を頂戴します
 - ✓ **ご発言時には、WebExの画面下にある挙手ボタンを押していただき、司会者または事務局から指名された後に発言してください(発言が終わりましたら、挙手ボタンを下げてください)**
- ✓ 各チームで出たご意見は、11:20からの「全体質疑・共有」の場で、PMO事務局より全体共有いたします

ワークショップで意見交換する内容

被災者見守り・相談支援業務を対象として、以下について意見交換を行います。

質問①：訪問活動、安否確認に必要な情報について（15分）

- 被災者個人に関する情報(住民情報、罹災証明書の申請/発行情報)
- 支援が必要な被災者の情報(避難行動要支援者名簿、個別避難計画)
- 住所又は居所等の情報(避難所入所者名簿、被災者自ら情報発信した情報)
- 見守り対象者の健康状況(特にこの情報は必須である、等のご意見があれば頂戴したい)

質問②：訪問記録はどのように作成しているか、データ化しているか、どのように管理しているか（25分）

- (1)訪問時、メモ用紙に記録 → (2)帰庁後、紙訪問シートを作成 → (3)システム (Kintone)に入力している など

質問③：訪問記録など個人情報の取り扱い、共有（特に授受・連携時）で、課題となったこと（8分）

- 契約関係のない連携・協力機関への情報提供の可否
- 被災者本人の同意の取得 等

質問④：訪問記録の作成、情報の共有等に関する工夫、取り組みについて（7分）

(記録の作成) タブレットやPCを活用して、記録時からデータ化を実施

(情報の共有) 情報の取り扱いルールを定め、共有する支援者にはルールを遵守する旨の文書を作成した

(セキュリティ対策) 判定会議やケース会議などで情報を共有する場合は、画面共有のみ、紙資料は回収する 等

【参考】過去のヒアリング等で得られた事例

【凡例】 質問①：訪問活動、安否確認に必要な情報について 質問②：訪問記録はどのように作成、データ化、管理しているか
 質問③：訪問記録など個人情報の取り扱い、共有の課題 質問④：訪問記録の作成、情報の共有等に関する工夫、取り組みについて

#	所属組織	質問 (①～④)	扱う情報	回答内容
1	地域支え合いセンター	①	被災者の居所の情報や訪問の優先順位付けのために必要な健康情報	<ul style="list-style-type: none"> 事業開始前に被災市町から地域支え合いセンター（社協等）に、見守り対象世帯や個人に関する情報が必要だった。訪問の優先順位も付けられるとよかった。
2	地域支え合いセンター	②	訪問記録	<ul style="list-style-type: none"> 訪問時は被災者の心情に配慮して最低限のメモに留めている。そのため帰庁後に紙訪問シートを作成・システム（Kintone）入力を行っているが、業務負荷が大きい。 NWやUIの観点から、業務担当者がタブレットを使いこなすのにも一定の訓練が必要。
3	石川県	③	避難行動要支援者名簿 個別避難計画	<ul style="list-style-type: none"> 避難だけでなく、見守り支援にも活用できないのか。 （「避難支援等の実施に必要な限度」と整理することは適当か）
4	避難先市町	③	広域避難者の被害の状況、援護の実施状況及び要配慮情報	<ul style="list-style-type: none"> 避難先市町は被災者台帳を作成できるのか、作成した被災者台帳に他市町の住民情報（被災市町からの被災者の情報）を記録することはできるのか。 （避難先市町が避難者の個人情報を持する根拠の整理が難しかった）

<訪問対象>

- 町内全世帯（約7,500世帯、約17,600人）を対象に実施（**★対象世帯は、行政（町）が決めている**）
- **★地域支え合いセンター（社協等）には、事前に対象世帯や個人に関する情報がない。**
- **★「被災者データベース」から**（「システム（Kintone）」を經由して）**住民情報の提供を受けている。**
- 「被災者データベース」の**★住民情報は、発災日（1/1）時点のため、その後の異動が把握できない。**
- 被害が大きい地域などエリア順に訪問活動を実施（**★訪問の優先順位づけが課題**）
- 高齢者（65歳以上）独居世帯（約1,100戸）は、民生委員（ボランティア）の協力を得て（3～4月に）訪問活動を実施
- **★地域外（県外、県内他市町）への避難者は把握する手段がない。**

<担当者>

- 相談員16名（社協2名、新規雇用14名）が2名1組（最大30世帯/日）で訪問活動を実施
- **★対象世帯の訪問状況、ルートの作成が負担（紙地図でマーク管理、職員の土地勘だより）**



<業務>

【訪問活動】

- 訪問シートは、県様式を活用（一部、独自に加工）
 - 基本的に、平日に訪問活動を実施（★面会できる割合は、5～4割程度（電カデータも有効活用））
 - 相談内容は、「居住（再建）関係」、「介護・福祉関係」、「健康・医療関係」が多い。
 - 支援へのつなぎ先は、「行政」「社会福祉協議会」「地域包括支援センター」「医療機関」が多い。
 - 記録は、①訪問時、メモ用紙に記録 → ②帰庁後、紙訪問シートを作成 → ③システム（Kintone）に入力
- ★ ①は、「機微な情報の記録に係る被災者への配慮」、「PC/タブレット利用、NW環境の確保」が課題
- ★ ②及び③は、作業に係る時間（1日2時間程度）が課題

【判定会議】

- 訪問シートに基づき、必要な支援の分類判定を実施
 - 仮設住宅は全世帯、その他世帯は必要に応じて、判定会議（2週間に1回）を開催して、必要な支援を協議
 - 町社協、地域包括支援センター、町保健福祉センター、町公立病院医師、県社協が参加
- ★ 会議では、訪問シートから「必要な情報のみ」を参加者に共有（訪問シートは見せない）

【ケース会議】

- 対象者（世帯）があれば開催（不定期）
 - 「判定会議」参加者に加えて、「連携・協力機関」に参加を依頼する（実績：社会福祉法人）
- ★ 「連携・協力機関」への情報提供は、本人同意が必要と考えている（訪問時、同意を取る場合もある）

【参考】被災者見守り・相談支援業務で利用する訪問シート様式（石川県様式）

石川県様式では、世帯アセスメントと個人のアセスメントに分かれており、自由記述ではなく、選択式の項目を多く設定しています。

		記入日時	年 月 日 午前/午後 時		
石川県地域支え合いセンター訪問シート					
訪問・記録者			方法	<input type="checkbox"/> 訪問 <input type="checkbox"/> TEL <input type="checkbox"/> その他	
被災前住所	〒 (_____)				
現住所	<input type="checkbox"/> 建設型仮設 <input type="checkbox"/> みなし仮設 <input type="checkbox"/> 公営住宅 <input checked="" type="checkbox"/> 在宅 <input type="checkbox"/> その他 〒: _____ 住所: _____				
住民票の住所					
世帯主	フリガナ	セイ	メイ	生年月日	年 月 日
	氏名	姓	名	性別	<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女 <input type="checkbox"/> その他
世帯員	フリガナ	セイ	メイ	生年月日	年 月 日
	氏名	姓	名	性別	<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女 <input type="checkbox"/> その他
	フリガナ	セイ	メイ	生年月日	年 月 日
	氏名	姓	名	性別	<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女 <input type="checkbox"/> その他
	フリガナ	セイ	メイ	生年月日	年 月 日
	氏名	姓	名	性別	<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女 <input type="checkbox"/> その他
いずれかを記入	電話番号	<input type="checkbox"/> 携帯電話 (_____) <input type="checkbox"/> 本人以外の連絡先の場合チェック <input type="checkbox"/> 固定電話 (_____) (□家族 □知人 □その他)			
	メールアドレス	なし		<input type="checkbox"/> 連絡手段なし	

1. 世帯のアセスメント

要配慮事項 (任意)	<input type="checkbox"/> 高齢のみ世帯 <input type="checkbox"/> 高齢単身世帯 <input type="checkbox"/> ひきこもり <input type="checkbox"/> 病気・怪我 <input type="checkbox"/> 妊産婦 <input type="checkbox"/> 乳幼児 <input type="checkbox"/> 障害者(身体) <input type="checkbox"/> 障害者(知的) <input type="checkbox"/> 障害者(精神) <input type="checkbox"/> 要介護 <input type="checkbox"/> 医療機器 <input type="checkbox"/> ペット <input type="checkbox"/> 外国人 <input type="checkbox"/> その他 (_____)
罹災証明	<input type="checkbox"/> 取得済み <input type="checkbox"/> 申請中・申請予定 <input type="checkbox"/> 申請しない
住家の被害状況	<input type="checkbox"/> 全壊 <input type="checkbox"/> 大規模半壊 <input type="checkbox"/> 中規模半壊 <input type="checkbox"/> 半壊 <input type="checkbox"/> 準半壊 <input type="checkbox"/> 一部損壊 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 不明
世帯の収入	<input type="checkbox"/> 就労・自営業等により収入あり <input type="checkbox"/> 年金で生活 <input type="checkbox"/> 預貯金で生活 <input type="checkbox"/> 求職中 <input type="checkbox"/> 生活保護等の支援を受けている <input type="checkbox"/> その他 (_____)
住宅再建の方針	<input type="checkbox"/> 自力再建の予定 <input type="checkbox"/> 自力再建したいが時間がかかる <input type="checkbox"/> 自力再建が難しい <input type="checkbox"/> 公的支援を希望する <input type="checkbox"/> 住宅再建について考えられない、考えたくない、見通しなし
特記事項	

2. 個人のアセスメントの調査

フリガナ	セイ	メイ	性別	<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女 <input type="checkbox"/> その他
氏名	姓	名	職業 (任意)	
医療的サポートの利用の有無	<input type="checkbox"/> 有 (□定期的投薬が必要) <input type="checkbox"/> 無			
要介護(支援)認定の有無	<input type="checkbox"/> 有 (□要支援1 □要支援2 □要介護1 □要介護2 □要介護3 □要介護4 □要介護5 □介護区分不明) (利用している居宅介護支援事業所名: _____)			
障害等手帳の有無	<input type="checkbox"/> 有 (□身体障がい者手帳 □精神障害者保健福祉手帳 □療育手帳) <input type="checkbox"/> 無			
介護・福祉サービスの利用の有無	<input type="checkbox"/> 有 (利用している事業所名: _____) <input type="checkbox"/> 無			
聞き取り項目	1	体調に不安がある	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
	2	金銭面に関して困っている	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
	3	災害で大切な人を亡くし悲しみや喪失感がある	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
	4	近くにすぐ連絡の取れる家族や親せきがない	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
	5	近隣住民やコミュニティとのかかわりがない	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
	6	移動の手段等で困っている	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
	7	市町からのお知らせが届いているか	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
目視等でのチェック	1	部屋の片づけに不安がある	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
	2	清潔感や身だしなみに不安がある	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
	3	異臭がある	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
	4	アルコールに関して不安がある	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
	5	顔色があまりよくない	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
	6	話す様子から不安がある	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
	7	支援制度の活用には不満や拒否感がある	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
	8	家族と円滑に関わっていない、関係が良好ではない	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
	9	情報の理解や、社会的な手続きが難しい	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
	10	訪問拒否あり	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
次回訪問	次回の訪問日 (特別に必要な場合に記入) 年 月 日		判定区分	
特記事項				

ご提供いただいた個人情報は、令和6年能登半島地震に関して適切な支援*1、情報提供*2、対応の検証を行う目的で、被災市町、広域避難者の受入市町村、都道府県、学術研究機関、民間の支援団体等に必要範囲で共有することに同意します。

*1 石川県地域防災計画における被災者への支援（義援金配分・安否確認・情報分析等）、*2 各種支援制度の周知 等

個人情報の共有に関する同意 : 確認済



【参考】被災者見守り・相談支援業務で利用する様式②（市町様式）

また、一部市町では被災者から聞き取った情報を項目選択式ではなく、自由記述で記録している場合もあります。

入力用シート2 #4

家庭訪問調査票		ver1	入力日	入力者	確認者	備考
受付情報/基本的な情報						
初回受付日: 2024年 月 日			支援終了日:		受付ルート:	
フリガナ			支援継続の必要性:			
氏名			年齢	家族状況:		
生年月日: 年 月 日		性別:	初回対応者所属:		氏名:	
住所: 〒 石川県						
携帯番号:		固定番号:		訪問頻度:		
緊急連絡先氏名		緊急連絡先(関係性)				
		緊急連絡先番号:				
世帯の情報						
世帯の情報	氏名	続柄	要フォロー番号	氏名	続柄	要フォロー番号
	氏名	続柄	要フォロー番号	氏名	続柄	要フォロー番号
世帯要フォロー番号		①介護 ②精神 ③療育 ④身障				
家族問題:		家族問題詳細:				
被災の状況(令和6年能登半島地震について) ※令和5年の地震と混同注意						
罹災証明書:		被災状況:				
避難場所:						
家に帰る事ができない理由:						
ライフライン開通状況:						
身体的・精神的情報(世帯主以外の情報は様式④に記入)						
既往歴						
現在治療中の病気と状態:						
医療機関						
医療機器:						
食事制限:						
制度利用状況:						
その他事業所など						
日常生活の状況						
日常生活の状況(食事・保清・衣類着脱・排泄・移動・意思疎通・判断記憶の自立状況)						
対応記録						
課題の種別:						
相談記録(相談記録アプリ)						
対応内容(相談記録アプリ)						
支援の方向性						

本字は聞き取り必須項目です。

直近の相談記録(最大3件)	
ID	氏名
支援日: 2024年 月 日 手段: 担当者:	
◆相談内容	
◆対応内容	
体温: 脈拍: 血圧: / SP02:	

【参考】被災者見守り・相談支援業務で利用する様式③（市町様式）

訪問結果や支援状況等についても、各市町において独自に様式を作成し、管理しています。
また、被災者宅の訪問/不在時にはチラシを配布している場合があります。

① 地域支え合いセンター訪問整理票

対象者氏名		地区名	住所名	アセスメントID	
仮設住宅団地名(部屋番号) 在宅住所					
確認	日付	時間	内容	訪問・架電者	備考
<input type="checkbox"/>	/ ()	自 : 至 :	在宅・不在 電話・その他		
<input type="checkbox"/>	/ ()	自 : 至 :	在宅・不在 電話・その他		
<input type="checkbox"/>	/ ()	自 : 至 :	在宅・不在 電話・その他		
<input type="checkbox"/>	/ ()	自 : 至 :	在宅・不在 電話・その他		
<input type="checkbox"/>	/ ()	自 : 至 :	在宅・不在 電話・その他		
<input type="checkbox"/>	/ ()	自 : 至 :	在宅・不在 電話・その他		
<input type="checkbox"/>	/ ()	自 : 至 :	在宅・不在 電話・その他		
<input type="checkbox"/>	/ ()	自 : 至 :	在宅・不在 電話・その他		
<input type="checkbox"/>	/ ()	自 : 至 :	在宅・不在 電話・その他		
<input type="checkbox"/>	/ ()	自 : 至 :	在宅・不在 電話・その他		
<input type="checkbox"/>	/ ()	自 : 至 :	在宅・不在 電話・その他		
<input type="checkbox"/>	/ ()	自 : 至 :	在宅・不在 電話・その他		
<input type="checkbox"/>	/ ()	自 : 至 :	在宅・不在 電話・その他		
<input type="checkbox"/>	/ ()	自 : 至 :	在宅・不在 電話・その他		
<input type="checkbox"/>	/ ()	自 : 至 :	在宅・不在 電話・その他		
<input type="checkbox"/>	/ ()	自 : 至 :	在宅・不在 電話・その他		
<input type="checkbox"/>	/ ()	自 : 至 :	在宅・不在 電話・その他		
<input type="checkbox"/>	/ ()	自 : 至 :	在宅・不在 電話・その他		
<input type="checkbox"/>	/ ()	自 : 至 :	在宅・不在 電話・その他		
<input type="checkbox"/>	/ ()	自 : 至 :	在宅・不在 電話・その他		

② 1.1震災後ケース管理台帳

個人ID	氏名	氏名(フリガナ)	生年月日	年齢	住所(番地まで)	避難場所	仮設住宅・避難先	課題の種別							訪問頻度	次回訪問日
								医療	介護福祉	住宅	生活	経済	その他			
										1					3カ月に1回	2025/1/4
										1	1				1カ月に1回	
										1	1				1カ月に1回	2024/12/19
						白字									3カ月に1回	2024/12/25

入力シート2 #5、#6

③ 入力用シート2 #2,#3

										訪問結果			
並べ替え	説明会日程	住宅番号	間取り	氏名	入居日	訪問日	訪問時間	備考	訪問日①	在・不在・未入居①	担当①	フォロー要否	
1	⑥1400	A1-1	1K										

④

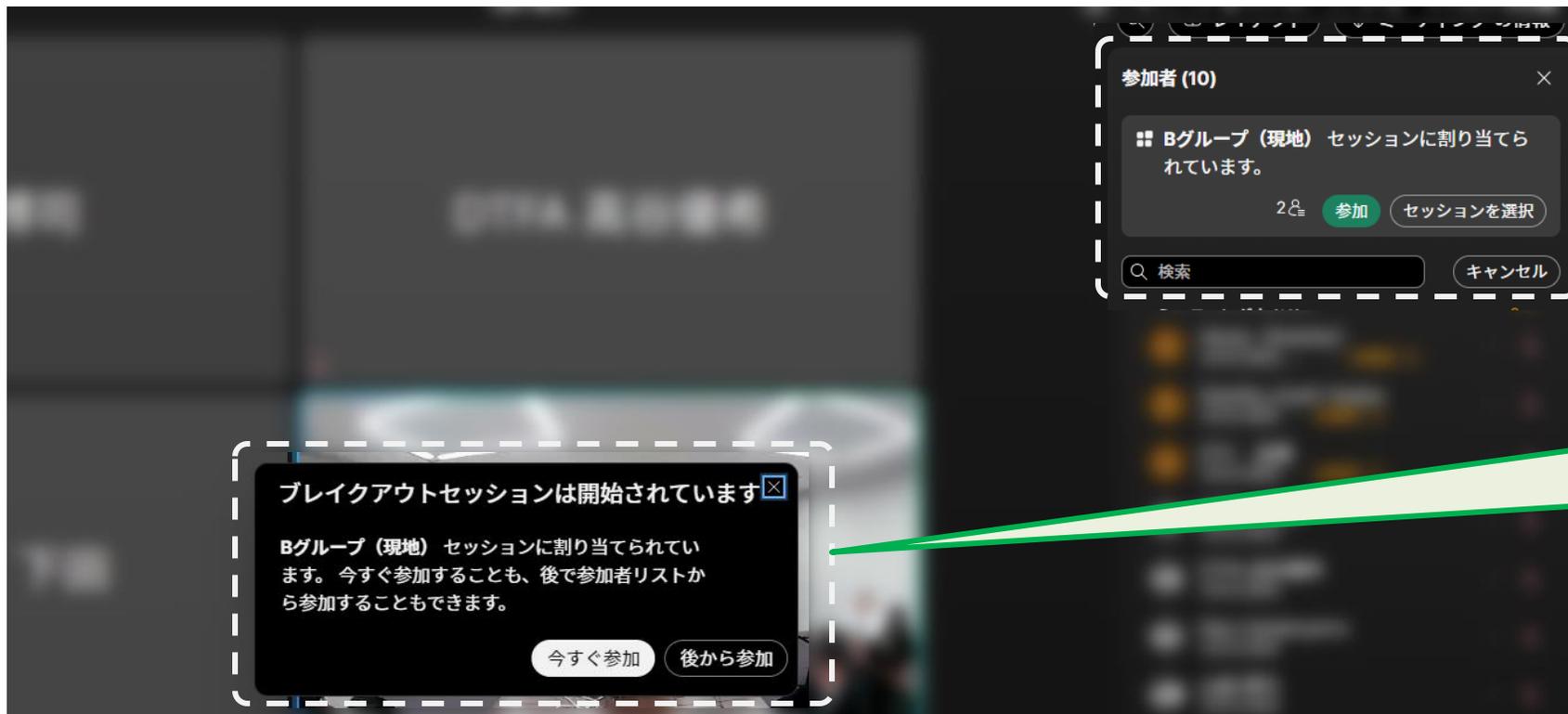
⑤

①～③ 訪問結果記録様式（訪問日、在・不在状況、担当者）

④～⑤ 訪問時に配布するチラシ

ご案内

いまから、ブレイクアウトセッションを始めます。
事務局にてチームを分けますので、ボタン押下をお願いします。



画面右上にある**緑色**のボタン
もしくは、画面中央に表示され
る**今すぐ参加**のボタンを押してく
ださい。

- ※ グループへ参加しそびれた方は、その場でマイクをオンにし、ご発言ください。
- ※ また、別チームへの移動を希望される場合、画面右上の**セッションを選択**をクリックして移動してください。

全体共有

全体共有_Aチーム

【凡例】

質問①：訪問活動、安否確認に必要な情報について
 質問②：訪問記録はどのように作成、データ化、管理しているか

質問③：訪問記録など個人情報の取り扱い、共有の課題
 質問④：訪問記録の作成、情報の共有等に関する工夫、取り組みについて

被災9市町行政および社協
 避難先市町行政および社協
 連携・協力機関

#	所属組織	質問 (①～④)	取り扱う情報	回答
1	A-1 被災市町	①	-	見守り・相談支援業務を実施する支援主体が多いため、支援主体間での、 収集・連携対象情報の統一に苦慮している。
2		②	-	見守り・相談支援業務の実運用は、本日のWS参加者としては詳細に把握していない。一方、 紙面での記録ではなくシステムを用いて記録・情報共有を行っている ことは把握している。
3		③		
4		④		
5	B-3 避難先市町	①	<ul style="list-style-type: none"> 健康管理情報 住まいの確保状況 生活再建に向けた対応方針 医療機関情報 介護状況 	<ul style="list-style-type: none"> 災害のフェーズによって、見守り対象の優先度、および、優先度を判断するために必要な情報が変わる。例えば、初期フェーズは健康管理、その後住まいの確保、その後生活再建に向けてどうするか、という情報が重要である。 複数市町において、特定の高齢者に対し救急キットを配布している。救急キットを配布する際に利用している情報には医療機関の情報や介護状況などの情報が含まれているため、同情報を連携することで、見守り・支援業務に活用できるのではないか。
6		②	-	<ul style="list-style-type: none"> 月2回程度、ケース会議を行い、情報・活動状況の共有を行っている。 対象者が市町を移動した場合、市町間での情報連携については、県社協からのアドバイスもあり、必要に応じてZoomでの情報連携を行ったケースがある。
7		③	(個人情報全般)	<ul style="list-style-type: none"> 特段課題は感じていない。目的が明示されている中での委託業務であるため、行政上規定通りに対応していた。個人情報の取り扱いについては県社協とも確認のうえ、行政から、社協等に業務を委託した。 連携・協力機関に対しては、市町は「つなぎ役」としての立ち位置として、必要な情報を渡している。
8		④		

全体共有_Aチーム

【凡例】

質問①：訪問活動、安否確認に必要な情報について
 質問②：訪問記録はどのように作成、データ化、管理しているか

質問③：訪問記録など個人情報の取り扱い、共有の課題
 質問④：訪問記録の作成、情報の共有等に関する工夫、取り組みについて

被災 9 市町行政および社協
 避難先市町行政および社協
 連携・協力機関

#	所属組織	質問 (①～④)	取り扱う情報	回答
9	A-2 被災市町	①	・罹災状況(全壊・大規模半壊・半壊に当てはまるか)、 高齡世帯か否か ・安否確認・健康管理に関する情報 ・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 被災者 = 町内全員が、見守り・相談支援業務の対象であった。罹災状況や高齡であるか否かという点が見守り支援業務開始時点で分ければ、優先順位をつけて回ることができた。一方実態としては、優先順位をつけることができなかつたためローラーで訪問をしており、時間を要している。 16スライド目の「地域支えあいセンター訪問シート」：中央下段の表形式の情報(現在のフェーズでは特に、安否確認・健康管理に関する情報)、および右側の特記事項メモは、原則訪問都度、情報更新している。 項目選択だけではわからないような情報（罹災状況や健康情報）について、特記事項にメモをしている。 被災者の生命に関わるような緊急情報（熱中症で倒れた、郵便ポストにチラシがたまっている、訪問したがお会いできない、等）については、特記事項に記載の上、口頭での連絡も行っている。
10		②	-	<ul style="list-style-type: none"> 訪問の記録は紙面で行っている。訪問日中に紙面に記録を行い、その後、別の担当者の方がシステム入力を行う。入力担当を決めているわけではなく、時間が空いている方が対応をしていた。
11		③	(個人情報全般)	<ul style="list-style-type: none"> 訪問シートを含め、個人情報が記載された書類の原本を持ち歩くのは、情報管理の観点から避けたい。したがって、訪問シートを読みヒアリング情報を決めて訪問し、訪問が終わってから訪問シートを記載する、というような運用をしていた。そのため、工数がかかっていた。
12		④	(個人情報全般)	<ul style="list-style-type: none"> 訪問シートの最後に「個人情報に関する同意」欄を設け、被災者からチェックを付していただく運用をしていた。実際の担当者が同対応の依頼を漏らさないよう、周知のための研修を行っていた。
13	B-3 避難先市町	①		
14		②	-	<ul style="list-style-type: none"> 対象者の困りごと等、ヒアリングできた内容を紙面で記録し、データ化せずに、その紙面を用いて、市町や協力機関へ情報連携したケースがある。 社協宛てに対象者から、「広域避難先に避難した友人の情報がほしい」と依頼されたことがあった。社協では同情報を持ち合わせていないため、社協から市町に本問い合わせ内容を連携した。

全体共有_Aチーム

【凡例】

質問①：訪問活動、安否確認に必要な情報について
 質問②：訪問記録はどのように作成、データ化、管理しているか

質問③：訪問記録など個人情報の取り扱い、共有の課題
 質問④：訪問記録の作成、情報の共有等に関する工夫、取り組みについて

被災 9 市町行政および社協
 避難先市町行政および社協
 連携・協力機関

#	所属組織	質問 (①～④)	取り扱う情報	回答
15	B-3 避難先市町	①	・発災当時の住所 ・特記事項欄	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発災当時の住所について、ご本人から伺った情報と県から提供された情報が食い違っていたため、キントーン（見守り・相談支援業務において対象者から聞き取った情報の入力・管理を目的とし、石川県が各市町に提供したツールを指す。）に入力することが難しかったり、避難後に生まれたお子さんの情報を追加できなかったり、情報を入力することに苦慮した。実際に見守りする際には困らないものの、<u>情報を入力する際に不便がある。</u> ・ 例えば被災した場所等、キントーン上で管理されている情報（避難先市町）と被災者本人の説明（被災市町）が食い違っている場合、キントーンの対象者検索画面でうまく検索ができないことがある。その場合、被災者本人に詳細情報を確認する必要があり、時間を要したケースがあった。 ・ 例えば対象者が他市町のみなし仮設から他市町のみなし仮設へ移動された場合、移動前にキントーンに入力された情報を、引き継ぐことができた。「特記事項」欄の中に、移動前市町における対象者の様子が入力されており、同項目記載の対象者の移動するまでの過去の様子を参考とし、ご本人とお話しすることができた。したがって、特記事項が重要だと思っている。
16		②		
17		③		
18		④		
19	構成員	④	-	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人情報保護法については、「利用目的内の外部提供」というものが法令上認められている。よって、利用目的を、災害や復興フェーズで利用できるように、平時から定めておくことが、今後に備える重要な視点である。 ・ 今回被災市町などでも正確に理解されているようだが、このような個人情報保護法の理解について、災害法制の法務研修のメニューとして取り込んでいくことが、データベース利活用の推進にも大切なことかと思う。

全体共有_Bチーム

【凡例】

質問①：訪問活動、安否確認に必要な情報について
 質問②：訪問記録はどのように作成、データ化、管理しているか

質問③：訪問記録など個人情報の取り扱い、共有の課題
 質問④：訪問記録の作成、情報の共有等に関する工夫、取り組みについて

被災9市町行政および社協
 避難先市町行政および社協
 連携・協力機関

#	所属組織	質問 (①～④)	取り扱う情報	回答
1	A-1 被災市町	①		
2		②		
3		③	-	<ul style="list-style-type: none"> 連携・協力機関への情報提供について、被災者に対して、必要な支援へのつなぐ場合には、連携・協力機関に情報連携する旨、説明していた。
4		④		
5	C-1 避難先市町 ※ご発言は連携・協力機関としてのお立場から受領	①	家族構成、年齢、主訴、利用している医療機関、通院頻度、投薬有無	<ul style="list-style-type: none"> 利用している医療機関、通院頻度、服薬の有無といった情報は訪問活動時に重要な情報であった。 訪問の際には家族構成、年齢、主訴を把握して対応した。
6		②		
7		③	(個人情報全般)	<ul style="list-style-type: none"> 避難先市町の支え合いセンターが専門機関につなぐ必要があると判断した対象について連携を受けた。対象者の支援を実施するために本人に同意を取得する流れ。 本人同意が取れている場合は実施がしやすかったが、本人同意が得られないケースがあった。
8		④	(個人情報全般)	<ul style="list-style-type: none"> 被災者が利用するサービス（通いの場、医療機関、在宅医療・介護連携推進事業）と連携して、支援にあたるケースもある。

全体共有_Bチーム

【凡例】

質問①：訪問活動、安否確認に必要な情報について
 質問②：訪問記録はどのように作成、データ化、管理しているか

質問③：訪問記録など個人情報の取り扱い、共有の課題
 質問④：訪問記録の作成、情報の共有等に関する工夫、取り組みについて

被災 9 市町行政および社協
 避難先市町行政および社協
 連携・協力機関

#	所属組織	質問 (①～④)	取り扱う情報	回答
9	A-1 被災市町	①	住宅の状況や生活の実態、居住有無	<ul style="list-style-type: none"> 1/16（日）より全戸ローリング(対象を定めるのではなく地図ベースで実施)を始めた。 アセスメントの様式は、過去の災害（熊本地震）のものを参考とした。 訪問活動後、データ化（キントーンに入力）している。 訪問活動には、住宅の状況や生活の実態、居住有無情報が必要である。
10		②	-	<ul style="list-style-type: none"> 訪問活動後、データ化（キントーン）に入力している。
11		③	(個人情報全般)	<ul style="list-style-type: none"> 訪問時に口頭で、関係機関へ情報連携する旨を説明し、同意を取得していた。
12		④		
13	A-2 被災市町	①	仮設住宅の入居申込状況、居住実態、生活再建支援申請状況	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者等把握事業のデータが共有されるまで時間がかかり（2～3か月）、独自に実施した簡易アセス面との情報を利用した。 仮設住宅への入居申し込みの情報と、実態に乖離があるケースが見受けられた。 仮設入居者のほとんどは半壊以上判定世帯のため罹災情報の共有はなくても大丈夫だが、今後は生活再建関連の申請状況の情報が必要になる。
14		②	-	<ul style="list-style-type: none"> キントーンに入れる前提で簡易的なアセスメント情報は紙に記入し、事務所に戻ってからデータ化した。
15		③	(個人情報全般)	<ul style="list-style-type: none"> 基本的には市の中で個人情報を取扱うことにしており、外部の支援者に情報を提供することはしない。 外部支援者から情報を提供されることはあるが、こちらから提供することはない。
16		④		

全体共有_Bチーム

【凡例】

質問①：訪問活動、安否確認に必要な情報について
 質問②：訪問記録はどのように作成、データ化、管理しているか

質問③：訪問記録など個人情報の取り扱い、共有の課題
 質問④：訪問記録の作成、情報の共有等に関する工夫、取り組みについて

被災9市町行政および社協
 避難先市町行政および社協
 連携・協力機関

#	所属組織	質問 (①～④)	取り扱う情報	回答
17	B-3 避難先市町	①	仮設住宅名、世帯名 既往歴、医療機関の 受診状況、服薬状況	<ul style="list-style-type: none"> 県から受領した訪問対象者の情報(仮設住宅名、世帯名)を把握の上、訪問活動を実施した。 初回訪問の順序は特段なく、対象者の全戸訪問を実施した。一方で2回目以降の訪問は初回訪問での情報をもとに緊急度に応じて優先付けを実施していた。 要配慮世帯に繰り返し訪問している。見守り対象世帯は全体の15% (約200世帯) あるため、全国の社会福祉士の協力を得ながら訪問を行っている、申し送り事項を次回の訪問者につないでいる。 十分な判定はできていない。既往歴や受診状況、服薬管理に不明点があれば情報を収集し確認をしていく。
18		②	-	<ul style="list-style-type: none"> 紙の訪問シート(県様式)を持参のうえ記録を作成した。
19		③	緊急連絡先、家族構成	<ul style="list-style-type: none"> 連携・協力機関へつなぐ際に、被災者の家族に了承を得ることが必要な場面があったが、緊急連絡先が分からないことや誰に連絡すればよいか分からないなどの困難が生じた。これらの情報は最低限あるとよかった。 連絡先を取得できない場合には被災前の居住先の市町村に世帯状況を確認するなど対応した。 初回訪問時に情報連携に関する同意を取得している。
20		④		
21	A-1 被災市町	①	-	<ul style="list-style-type: none"> 県から受領した名簿をもとに在宅を除いた220世帯に対して訪問を実施した。1回目の訪問順番は特段なく、2回目以降は実施した情報をもとに訪問要否、訪問頻度を判断していた。
22		②	-	<ul style="list-style-type: none"> 県の訪問シートを利用した。 アセスメントシートはなく、紙で取得した訪問シートの積み上げをアセスメントシートとしていた。
23		③	(個人情報全般)	<ul style="list-style-type: none"> 行政機関につなぐ場合には特に課題感を感じていない。ボランティア等の連携・協力機関につなぐ際は、本人同意を取得する必要があると考えている。
24		④	(個人情報全般)	<ul style="list-style-type: none"> 安定していれば訪問しなくていいという考え方もあるが、時間の経過や季節が変われば、体調が変わることもあるので、実施時間が空いた時でも丁寧に訪問を行った。

全体質疑・協議

参加者から頂いた質問とその回答

(構成員からのご質問)

- 被災者の方から「同じことを2度聞かれた、3度目だ」等と、嫌な顔をされたことがあるか。
- あるとしたら、どのようなタイミングでどのような情報を聞いたときか。
 - (被災市町社協)初回訪問の際に「そこまで聞くの？」など、疑われたことはある。被災者の方からしても、初めて会う方に対して、個人情報（家族の情報等）をどこまで話せばよいのか、判断が難しかったものとする。
 - (JOCA)支え合いセンター以外も仮設住宅等の訪問を行っており、さまざまな団体が訪問していたことから、被災者から「ほかの人にも同じことを伝えたのに」というコメントが出たことはある。一方、JOCA内においては情報の引継ぎを確実にしているため、JOCAが対応した被災者から同様のコメントを受けたことはない。情報の引継ぎは、キントーンに記入されている情報を確認することで対応している。
 - (避難先市町社協)川北町社協では、同じ担当者が継続して訪問するようにしているため、複数回訪問する際、前回と同じ内容を何度も伺うことはない。ただし、基本的な様子を伺う中で、毎回、同じような質問をお聞きすることはある。また、被災市町さんの発言どおり、初回訪問の際に嫌な顔をされることはあった。

(構成員からのご質問)

- 広域被災者データベースのデータベース設計に関わるため、地域支えあいセンターの業務実態を伺いたい。

(1) 繰り返し訪問が必要な被災者は、どのような方が多いのか。

- (避難先市町社協) 繰り返し訪問をしないとイケない方について特に、震災前からそのような健康状態なのか、震災を経てそのような健康状態になったのか、という点の判断ができるよう、平時の健康状態を知れると良い。生命の危機があり、服薬管理が必要だと判断した方は、ローテーションを組んで、繰り返し訪問を行った。例えば、高齢独居であれば月1回の頻度で回ると決めている。生命の危険があると判断した方は、判定会議やメールのやりとりで、担当者間で情報を共有している。
- (避難先市町社協) 高齢者・引きこもり・母子世帯等の要支援世帯が対象。2週間/1か月に1度などの頻度を決めて、訪問している。
- (JOCA) 孤立している/フレイル状態である/メンタルが不安定/経済が不安定/福祉へつなぐ必要がある方/高齢独居の方等をリスク高と判断し、安否確認も含め、継続モニタリングしている。

(2) 繰り返し訪問が必要な方の割合はどの程度か。

- (避難先市町社協) 判定会議において分類4となる（繰り返し訪問が必要であると判断される）方は、少ないと感じている。
- (避難先市町社協) (1)で回答した「支援世帯」は、計200世帯、市全体の15%を占める。
- (JOCA) (1)で回答した「リスク高と判断される方」は、高齢者が多く、支援対象者の約50%を占める。

(3) 繰り返し訪問が必要な方へは、同じ職員が訪問をされるのか。都度、異なる職員が訪問するのか。

- (避難先市町社協) 2人1組が原則。出勤状況によって2人の組み合わせが変わるため、同一職員が訪問するわけではない。可能な範囲で、2人のうち1人は固定するようにしている。
- (避難先市町社協) 一部対象者に対しては、固定の担当者を配置しているものの、様々な団体から協力を仰ぎながら見守り・相談支援業務を遂行しているため訪問する担当者は都度異なることが多い。申し送り事項は、担当者間で確りと連携している。

(4) 判定会議では、訪問シートの情報で十分に判定できるか。不十分な場合、不足する情報はどんなものがあるか。

- (避難先市町社協) 十分に判定できていないと感じる。既往歴や受診状況、服薬情報などが欠落する場合は被災者を再訪問して取得している。

オブザーバーからの総括コメント

(オブザーバー 倉敷市秋山様からのご意見)

- 災害対策基本法に基づき作成した被災者台帳は、罹災証明に紐づける形で、住民票、義援金、国民健康保険の減免、居所など広範囲の情報を集約していた。加えて、見守り・相談支援業務で得た情報も含まれている。
- 災害対策基本法では、市役所内部で被災者の情報を共有できていたが、追加で委託契約を結ぶことで、社会福祉協議会にも情報を共有できるようにしていた。
- 情報管理の観点からは、社会福祉協議会と市役所とで、アクセスできる範囲を変更していたため、例えば社協のいる場所に市職員が出向き、情報を共有していた。外部の民間支援者とのやり取りは、委託契約を締結し、必要な情報を精査し、情報共有した。一般ボランティアとの情報共有については、被災者支援の最終フェイズに生じたため、既に本人同意が得られており、その同意に基づいて提供した。今考えれば、生活困窮者自立支援法による支援会議であれば問題なく、重層的支援体制整備事業の支援会議とするスキームも考えられる。

(オブザーバー 倉敷市社会福祉協議会佐賀様からのご意見)

- 被災者との信頼関係ができないと、本当のことは教えてもらえない。被災者から教えてもらったことは、関係機関に確りとつなげていくのが大切である。
- 本来使える制度が利用されていない際、その理由を対象者に聞いてみると、使えることを知らなかったという意見が多い。行政と情報共有しながら、見守り・相談支援業務をしていくことが大事だと感じた。

(オブザーバー 神戸市看護大学神原様からのご意見)

- 安否状況および、生活再建に向けた状況のわかる情報が、最低限必要であり、特記事項には、継続的に見守りをしなければならない背景、及び外部支援者につながなければならない背景が記載されていると理解した。
- 情報を持っているのは被災者自身であるから、そのすべての情報をデータ化することではなく、「被災者の情報を自治体はそのデータベースに入れて守っていく」ことを前提として、どのように情報連携していくか？という全体像を示すことがよいと思う。全体像を見せつつ、石川県の現状を示して、次の広域災害に向けどのような対策ができるか、各自治体が考えていく必要があると考える。

事務連絡

< 第3回避難所及び避難所外被災者の支援に係る検証チーム、第3回必要な機能・ユースケース及び業務フロー検討チームのご案内 >

1. 日時・場所

令和7年1月14日(火)10:00-12:00

石川県行政庁舎5階511会議室 ※現地・オンラインのハイブリッド開催

2. 主な議事

(検討中)

3. 開催方法

現地/オンライン開催(Webexを利用)

< 第4回避難所及び避難所外被災者の支援に係る検証チーム、第4回必要な機能・ユースケース及び業務フロー検討チームのご案内 >

1. 日時・場所

令和7年1月21日(火)10:00-12:00

石川県行政庁舎5階511会議室 ※現地・オンラインのハイブリッド開催

2. 主な議事

(検討中)

3. 開催方法

現地/オンライン開催(Webexを利用)

< 第3回広域被災者データベース・システム検討ワーキンググループのご案内 >

1. 日時・場所

令和7年1月31日(金)10:00-11:30

石川県行政庁舎13階1311会議室 ※現地・オンラインのハイブリッド開催

2. 主な議事

(検討中)

3. 開催方法

現地/オンライン開催(Webexを利用)